

## 博士課程学生研究発表奨励事業について

これまで、この事業で国際学会等に出席して感じたこと等について、大学院学生（大学院理工学研究科学生（工学系））からお聞きした声を、校友会でまとめたものです。

- ・ 専門的な会話では「英語力」が不可欠であることを実感。
  - ・ 質疑応答では、英語のスキルアップが必要。
  - ・ 研究内容を改めて見つめ直すことができ、新たな発見もあった。
  - ・ 英語でのコミュニケーションのむずかしさを実感。
  - ・ 国際学会等への参加を通じて、同世代の方とネットワークを作ることも大切。
  - ・ 言葉の壁もあったが、アメリカの研究者とのディスカッションは得るものが多くあった。
- 
- ・ 世界的に著名な先生の話を生で聞くことができたことは財産。
  - ・ 質疑応答は日本語でのようにはうまく行かなかった。
  - ・ 「友だちが作れた」ことは収穫。
  - ・ 同世代の人たちが堂々と発表しており、私も大きな刺激を受けた。
  - ・ ベストポスター賞にノミネートされ、とても自信になった。
  - ・ 日常会話においても細かなニュアンスを伝えるのはむずかしかった。
  - ・ 学会発表と日常会話とは全く違うことを実感。
  - ・ 今回の経験をぜひ次の研究に生かしたい。
  - ・ 思っていることを英語でうまく伝えられなかった。
  - ・ 言葉の壁（英語力の不足）を痛感した。ツールとしては大事。
- 
- ・ 質疑応答では、英語力のなさを痛感した。
  - ・ 深いディスカッションを行うには、英語力を高める必要性を実感した。
  - ・ 学会に行く前に、留学生と会話を練習したことがとても役に立った。
  - ・ 笑顔やジェスチャーも大切。
  - ・ 中国の学生は真剣で英語はペラペラ。  
ライバルは日本だけではなく世界にたくさんいることを実感した。
  - ・ 国によっては着眼点がちがう。
  - ・ 文化も含めて、日本との違いを実感した。
  - ・ 世界に出てみないとわからないことがたくさんある。
  - ・ ポスター発表では、なかなか練習通りには行かなかった。
  - ・ コミュニケーションができる英語力が必要である。
  - ・ 現地での移動の際、アメリカの“地下鉄”の乗り方に戸惑った。
  - ・ ポスター発表で英語での発表経験が何回もあり、比較的スムーズにできた。
  - ・ 自分の発表だけでなく、世界中の最先端研究の一端に触れることができる。
  - ・ 英語の読み書きと話すのはちがう。